

## 研修報告書 No13

私は〇〇病院で1ヶ月間の研修をさせていただきました。100床程度の小さな病院で紙カルテ、内服薬以外は紙オーダーでした。CT、MRIも可能で、性能の問題はありましたが思ったよりも検査に不自由は感じませんでした。軽症から比較的重症まで幅広く診ており、各科で専門的に診る大学病院と違い全般的に診ているところを体感することが出来ました。

林業が衰退し、人口減少、高齢化が進み、高齢者が一人で暮らしていることが多く、体調が悪くなって病院を受診してもなかなか状況がつかむことが出来ないことが多いことがあることを知りました。また、○△診療所や△○診療所、◇◆診療所などの研修もさせて頂きました。患者さんを診ている時間よりも移動時間の方がよっぽど時間がかかる現状を目の当たりにし、診療を続けていくことが医者も患者さんもとても大変であることを体験しました。とくに◇◆診療所では1日で患者さんが6人程度しか来ず、地域の過疎化が深刻であることを痛感しました。

私の部活の先輩が梶原で勤めており、土日を利用して梶原を訪れてみました。風力発電、太陽光発電、地熱利用の温水プールなどで環境モデル都市に認定されている街だと紹介されました。数年前に街を区画整理したらしく、コンパクトでおしゃれな街を見ることが出来ました。比較的最近建てられた家があったり子供たちがボールで遊んでいる様子も見ることができ、若者も暮らしているようでした。梶原は少し遠いところにありますが道も比較的良好、もう少し観光PRをがんばれば発展していくのではないかと感じました。

訪問診療も経験させていただきました。高齢による体力低下、寝てきりなどで通院困難な方、山奥で病院までの道のりが遠く通院できない方、人工呼吸器管理下で移動困難な方など様々な理由で定期通院が困難な方を診ることが出来ました。内科の医者の数が多いので訪問診療、診療所派遣などを幅広く行っており、普段は経験することが出来ない診療をみる事が出来ました。

営林署に出向いての講習会にも参加させて頂きました。テーマは腰痛で腰痛の基礎知識、各疾患について、腰痛の予防法や体操などについて先輩の先生が説明していました。産業医の仕事の一環とのことでした。産業医といえば都市部で大きな工場で汚染や公害、健康被害の状況を検査したり、労働者の肉体的、精神的な問題を診て行くというイメージしかありませんでした。労働者に対し定期的に講義を行うことで事故や疾病の予防になりますし、地域密着型であり素晴らしいことだと思いました。また、高知県は林業の影響で振動病に罹患している人が多く、外科の先生が主に振動病診察をしていました。長沢診療所でも振動病の患者さんが何人かいました。毎日病院に通い診察を受けリハビリをする必要があり、雨の日、雪の日関係なくこなくてはならないためとても大変であると感じました。

研修は1ヶ月間であつという間に過ぎ去ってしまいましたが、充実した研修生活を遅れたと思います。大学病院のように自分の専門しか診ない医者にはなりたくないという思いがあり、その一方で嶺北病院の内科の先生のように専門を持たずにやっていくのも難しいと思っています。自分の専門+一般的な幅広い内科の知識を習得し、いずれは僻地医療やプライマリケア

という形で診療して行きたいと考えています。そんな私にとってこの1ヶ月は今後の自分の進路を決めていく上でよい経験になったと思います。このような経験を忘れずに関東に帰ってからも仕事をしていこうと思います。

とても貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。